



8月4日 | 身近な化学反応に興味津々

伊久身農村環境改善センターで「夏休み子ども科学教室」が開かれ、市内の小学生16人が参加して、人工イクラと万華鏡作りを楽しみました。

中山隆雄^{なかやまたかお}東海大学元教授の指導で、昆布エキスを一滴ずつ「にがり」に落とすと、一瞬で丸く凝固。数十粒の人工イクラを試験管に入れて、発泡パネルの鏡の筒に差し込むと、自分だけの万華鏡が出来上がりました。

8月1日 | 地産地消の献立アイデア

市内の中学生が、地産地消の給食献立のアイデアや腕前を競う「中学生料理バトル」が、プラザおおりと六合公民館「ロクティ」の2会場で開催されました。

参加した合計12チーム45人で、地場産品を1種類以上使い、白飯に合う副食2～3品を作ることがルール。見た目と味付けの工夫や、栄養価などについて審査され、優秀な献立は実際に学校給食に採用されます。



8月10日 | 川面を染める大輪の花

夏の夜の風物詩「第25回大井川大花火大会」が大井川河川敷の両岸で開催され、約15万人の見物客が、夜空を彩る光と音の競演に酔いしれました。

観客から拍手と歓声が上が中、スターマインや創作花火など約8,000発が次々に打ち上げられ、大輪が開花。数年ぶりに復活した「止め雷」が終演を告げるまで、川面を華やかに染め上げました。



8月3日 | 看護師の仕事の一端を体験

看護への理解と関心を深め、将来の進路選択の一助としてもらうため、看護職を志望する高校生を対象に、島田市民病院で「高校生一日ナース体験」が行われました。

今年は、志太榛原地区などの16校から37人が参加。産婦人科を担当したグループは、新生児のおむつ替えに挑戦。小さな手足に目をほころばせながらも、真剣なまなざしで、看護師の仕事の一端に触れました。



8月15日 | 豪雨にも負けずレース白熱

川根町家山の野守の池で、恒例の「野守まつり」が開催され、約9,000人の人出でにぎわいました。

16回目となる「和船漕ぎ大会」には、37組74人が出場。豪雨にも負けず、約120mのコースを二人一組でまい進。懸命にオールを漕ぐ姿に、観客は盛んに声援を送りました。夕方からは灯笼流しや花火大会も行われ、家族連れなどが夏のひとときを楽しみました。

8月4日 | しまだ夏まつり

「島田夏まつり」が4日と5日、駅前中央通りや本通り商店街などを会場に開催されました。

さまざまな露店が軒を連ね、華やかな七夕飾りで彩られた会場を、幼稚園の鼓笛隊や民謡踊りが練り歩くなど、市民参加の多彩なイベントが繰り広げられました。今年は、震災で被災した岩手県大槌町と山田町を支援する物産市や慈善オークションも行われ、大勢の人でにぎわいました。

